

JENESYS2015 招へいプログラム (対象国:カンボジア テーマ:文化芸術交流(映画)の記録)

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、カンボジアより文化や芸術に関心を有する大学生、大学院生 20 名が来日し、日本の政治、社会、文化、歴史及び外交政策に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、10 月 19 日から 10 月 27 日までの 8 泊 9 日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加国・人数

カンボジア 20 名

3. 訪問地

東京都、茨城県

4. 日程

- 10 月 19 日(月) 成田国際空港より入国、来日時オリエンテーション
- 10 月 20 日(火) 【日本理解講義】
【歴史伝統文化】江戸東京博物館
- 10 月 21 日(水) 【学校交流】日本大学芸術学部
茨城県へ移動
- 10 月 22 日(木) 【表敬訪問】日立市役所
【日本文化体験】古民家「荒薪邸」
【地場産業】りんご狩り・試食(豊田りんご園)
- 10 月 23 日(金) 【視察】NHK 水戸
【歴史伝統文化】天心記念五浦美術館
【ホームステイ】ホストファミリー対面式
- 10 月 24 日(土) 【ホームステイ】
- 10 月 25 日(日) 【ホームステイ】ホームステイ歓送会
【ワークショップ】
- 10 月 26 日(月) 茨城県から東京へ移動
【報告会】(訪日成果・帰国後活動計画発表)
- 10 月 27 日(火) 成田国際空港より出国

5. JENESYS2015 カンボジア(文化)文化芸術交流 プログラム記録写真



10/21 【学校交流】日本大学芸術学部(東京都)



10/22 【表敬訪問】日立市役所(茨城県日立市)



10/22【日本文化体験】古民家「荒薪邸」(茨城県常陸太田市)



10/22【地場産業】りんご狩り・試食(茨城県久慈郡)



【メディア視察】NHK 水戸(茨城県水戸市)



10/26 【成果報告会】(東京都)

6. 参加者の感想

◆カンボジア 大学生

今回の訪日は私にとって初めての経験です。今回のプログラムを通じて、最も感心したのは、日本の生活習慣です。日本は近代的に発展していても、日本の古き良き伝統文化を守っています。滞在中、日本大学芸術学部を訪問しました。芸術学部映画学科の学生が制作した映画を鑑賞し、彼らとの意見を交換することも出来ました。彼らから多くのことを学びました。また、プログラム後半にNHK水戸放送局を見学する際に番組の生放送に出られ、放送方法についても学ぶことが出来て嬉しく思いました。

◆カンボジア 大学生

今回のプログラムで、初めて日本に来ることが出来ました。自分の人生において、貴重な経験です。各プログラムにおいて、担当者・講師からの説明を受けながら、実際の体験も出来て、日本への理解をより深めることが出来ました。最も感心したのは、社会秩序と治安が良いことです。日本人の生活習慣は見習う点が多く、協調性を持ちながら、法律を遵守しています。帰国後、ワークショップを開催して、今回のプログラムで得られた経験をカンボジア青少年に共有したいと思います。彼らのためにもっと勉強に励んで、機会があれば、私たちと同じく、日本での経験をさせたいと思います。

◆カンボジア 大学院生

私はプログラムを通じて、日本について理解をより深めることが出来ました。来日する前、私は日本は非常に科学の発展した国だろうと思っていました。しかし、来日後、日本は先進国になっても伝統的な文化を保存していると、実感しました。特に滞在中に日本の家庭にホームステイすることが出来、日常生活を知ることができて良かったと思います。日本人は発展的な社会の中に住んでいても伝統的な文化を守り、生活を送っています。伝統文化を継承することは、日本人の誇りだと思います。帰国後、日本に対しての誤解をしている人に正しく理解するように今回得られた経験を伝えたいと思います。

7. 参加者の帰国後の発信内容

①Project Title プロジェクトタイトル「<u>二国間の一つ結び</u>」 WHY : (Reasons to do it) 考えた理由 国は違いますが、お互いに理解するのが重要なことを発信したいから。 WHEN : (When will it be done?) いつやるか 11月25日 WHO : (Who will do it?) 誰がやるか カンボジア第1陣の訪日団 WHO : (To whom?) 誰に対してやるか カンボジアの人々・大学生 WHAT : (Details of the action) 何をやるか HOW : (How to do) どうやってやるのか -ビデオを作って、ワークショップを大学で行って、発信します。 -紙新聞のようにポスターを作って大学の掲示板にはって発信します。 -自分たちの大学ホームページに投稿し、JICEのホームページ、外務省のホームページ、ソーシャルネットワークのfacebookなどに投稿します。	②Project Title プロジェクトタイトル「<u>二国間の一つ結び</u>」 WHY : (Reasons to do it) 考えた理由 国は違いますが、お互いに理解するのが重要なことを発信したいから。 WHEN : (When will it be done?) いつやるか 2015年11月25日 WHO : (Who will do it?) 誰がやるか カンボジア第1陣の訪日団 WHO : (To whom?) 誰に対してやるか カンボジアの人々・大学生 WHAT : (Details of the action) 何をやるか HOW : (How to do) どうやってやるのか -ビデオを作って、ワークショップを大学で行って、発信します。 -紙新聞のようにポスターを作って大学の掲示板にはって発信します。 -自分たちの大学ホームページに投稿し、JICEのホームページ、外務省のホームページ、ソーシャルネットワークのfacebookなどに投稿します。
アクションプラン(クメール語)	アクションプラン(日本語)
Japan 2015 Cambodia  日本での気づき	